

これからの学びを考えてみよう!!

～「GIGAスクール構想」が学校にもたらすものとは～

第5号 達成目標を明確にし、今年度中にレベル1の実施を!!

学校として「GIGAスクール構想」に向けての準備は進んでいますか？多くの情報が一気に入ってきて戸惑っている部分が多いのではないかと思います。

まず何から準備しておくべきなのか。各校の現状に合わせ準備すべきことを整理し、今年度中に達成すべき目標を明確にすることから始めてみましょう。



今回のまなび通信では、準備しておくポイントと、達成目標の例、研修等で活用できる資料等の例を示しています。このまなび通信と別紙「GIGAスクール構想実現に向けた達成目標一覧」を活用し、来年度から始まる新しい学び方、学ばせ方に向けて計画的に準備を進めましょう。

check 以下に POINT 毎の達成目標例を示しています。まずはこの例を参考に各 POINT レベル1の達成目標を設定し、今年度中にそれが達成できるように準備を進めてほしいと思います。

POINT① 情報収集・共通認識

GIGAスクール構想の基本的な知識や、学校の状況（できること、やりたいこと等）、ICTを活用した授業実践、アプリケーションやタブレット端末の機能など、**情報収集**は出来ていますか？

学校の状況によって必要となる情報は異なります。必要な情報を収集し、それらの情報について**学校内で共通認識**を持てるようにしましょう。

達成目標レベル	達成目標(例)	参考となる資料等
レベル1	GIGA スクール構想の概要を理解する。	○校内研修パッケージ『GIGAスクール構想』が学校にもたらすものとは(中丹教育局作成)
レベル2	自校の状況(機材、スキル、やりたいことなど)の情報を集約する。	○まなび通信 157号・158号
レベル3	先進校の取組を知り、自校に取り入れる。	 
レベル4	教員用、生徒用の達成目標の表を作る。	

POINT② 校内体制の整備

時間も機材も限られたなかで、効果的に進めていくためには、**学校内の体制づくり、計画の設定**は必須です。この計画に沿って**学校全体**で取り組めるようにしましょう。



達成目標レベル	達成目標(例)	参考となる資料等
レベル1	ICT 推進委員会を立ち上げ、各POINTの達成目標のレベル1を設定し、達成する。	○自校のICT活用指導力向上の教職員研修計画
レベル2	GIGA スクール構想実現に向けた達成目標を作成する。	○「GIGAスクール構想実現に向けた達成目標一覧」(中丹教育局作成)
レベル3	情報活用能力の効果的な育成の視点で、情報活用能力の育成年間指導計画を作成する。	○各教科等における情報活用能力の育成年間指導計画の様式例(中丹教育局作成)
レベル4	実践しながら、計画を修正・改善する。	

POINT③ ICT活用による授業づくり

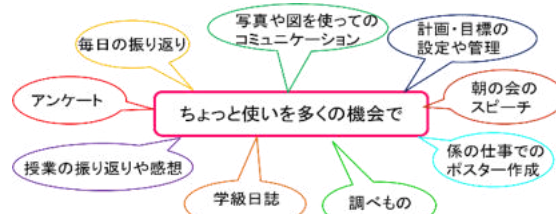
ICTは、**段階や目的に応じた活用**が大切です。そのときに、参考になるモデルが**SAMRモデル**です。

check **SAMRモデル**
 Ruben R. Puentedura(2010)が考案したモデルで、ICTを授業等で活用する場合に、授業や学習者にどのような影響を与えるのかを示す尺度となるものです。
 S(代替)⇒A(増強)⇒M(変容)⇒R(再定義)の4段階があります。

自校の状況に合わせ、各教科でのICT活用を検討しましょう。


達成目標レベル	達成目標(例)	参考となる資料等
レベル1	Substitution(代替) ⇒従来のツールの代用として活用する。 例)プリントの代わりに画像を投影する。	まなび通信 166号 (S・Aの段階で活用できる情報が掲載されています。) 
レベル2	Augmentation(増強) ⇒従来のツールの代用に加え、新たな機能を付加して活用する。 例)小テストを児童生徒のタブレット端末に配信し、結果をすぐにフィードバックする。	
レベル3	Modification(変容) ⇒これまでやっていた実践を再設計する。 例)タブレット端末の機能や学習支援アプリ等を活用し、話し合いを活性化させる。	文部科学省作成「各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する解説動画」 (S・Aだけでなく、M・R段階の実践が多く紹介されています。)
レベル4	Redefinition(再定義) ⇒以前はできなかった新しい実践をする。 例)児童生徒が他校とつながり交流するなど、空間的、時間的にとらわれない授業設計をする。	

check 教科以外の部分(SHRや学級活動等)でも、子どもたちが端末に触れ、活用する機会を設定し、ICTを生活に生かす場面を体験することも重要です。SAMRモデルを参考に、検討を進めましょう。



POINT④ 情報活用のルールづくり

ICTを有効に活用するためには、その運用や使用のルール、情報セキュリティの意識や情報モラルについて、しっかりとルールを作りましょう。また、そのルールは**作るだけでなく、学校に関わる全ての人**が**共通の認識**を持てるように準備をしましょう。

達成目標レベル	達成目標(例)	参考となる資料等
レベル1	研修パッケージ「情報セキュリティ事故対応研修」を実施する。	○校内研修パッケージ『GIGAスクール構想』が学校にもたらすものとは(中丹教育局作成)
レベル2	校内の情報活用に関するルールの設定と見直しをする。	○まなび通信 159号
レベル3	学校、教職員、児童生徒、保護者が共通理解を図れるよう、研修や授業、情報発信を行う。	
レベル4	児童生徒と一緒にルールを見直し、改善する。	